

市の重点課題	学校の重点項目	自己評価	達成状況	学校関係者評価委員会から	改善の方向
希望あふれる未来を自ら拓く力を育むための教育課程の編成	<ul style="list-style-type: none"> 学校の教育目標の具現に向けて、カリキュラム・マネジメントを機能させるようにする。特に、指導部会や教科部会、学年会における評価・改善活動の充実を図る。 各教科において、生徒の資質・能力の育成につながるロイロノートの活用のあり方を明らかにする。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 【教職員アンケート】教職員の指導に関する評価・改善活動の充実→肯定的回答率98%学年会において、短期・長期の指導計画を共通理解・検討したことで、教職員同士で見通しをもって指導にあたることができた。 教科部会において、生徒の実態把握に努め、それをもとに具体的な指導の手立てを考え、生徒の資質・能力の育成につなげた。 	<ul style="list-style-type: none"> 楽しく、そして落ち着いて学習に臨んでいる。どの教科でも、話す・聞く・書く・話し合う等の活動が効果的に位置付いており、仲間と自分の考えを積極的に交流し、学びを深めていこうとする姿がたくさんあった。 生徒や保護者アンケートを行い、その結果を教職員で分析し、さらに各教科等の学びが生徒にとって充実したものとなるようにしている。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒アンケート等での願いや思いを受け止めて、日常的、継続的に評価・改善活動を行っていく。また、それぞれの教職員のよさや得意を生かした研修を位置付け、互いに学び合う体制を構築する。 行事の内容や取り組み方法について見直し、生徒がさらに達成感や充実感をもてるようにしていく。
コミュニティ・スクールの機能の充実と岐阜市型小中一貫教育の推進	<ul style="list-style-type: none"> 学校運営協議会と支援推進委員会が連動しながら、地域と学校が一体となって生徒の資質・能力を育成できる活動を生み出す。 支援推進委員会の三部会を改編し、活動の整理を行うことで、より地域の方々から学ぶ体制をつくる。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 学校運営協議会では、校区の中学生の姿の具体を交流ができた。学校と地域の協働の在り方や身に付けてほしい資質・能力について話し合うことができた。 【教職員アンケート】地域や外部人材から学ぶ場の設定→肯定的回答100%平和学習や職業講話など、支援推進委員の部会で内容等を検討したことで、充実した活動となった。 夏の学習会では、高校生・大学生ボランティアにも協力を依頼し、実施できた。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域の行事等において積極的にボランティアに参加していた。その際、中学生として、小学生等に優しく関わる姿が多く、たくましさや優しさを感じる機会が多かった。 生徒アンケートの「地域や社会をよくするために何かしたいと思う」と回答する生徒が、R5 64%からR6 75%と増えている。その思いに応える活動を地域と共に考えていきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 地域のために何かをしたいと思っている生徒の願いが具現できる活動を、学校運営協議会や支援推進委員会と連携して検討していく。 地域の方々に、学校でのボランティアに参加・協力していただくために、スマート連絡帳や各種関係機関の諸会議において呼びかけを行っていく。 諸活動において、小中の連携を図ることができるようにする。
あたたかさとしがたがいにあふれる学校づくり	<ul style="list-style-type: none"> 生徒と関わる時間や専門教科の教材研究を十分に時間を確保するために、業務内容のスリム化を図る。また、業務時間短縮の工夫を図る。 管理職やミドルリーダーが積極的に教職員と対話する機会を設けるとともに、教職員に対して、温かい声かけを多く行っていく。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 日課や会議の位置付け、スマート連絡帳を活用した連絡の仕方を工夫したことで、生徒と関わる時間や教材研究を行う時間が増えた。 生徒に関わる問題等に対して、担任、学年主任、管理職が連携して、組織的に対応することで、よりよい解決につながった。また、ミドルリーダーの温かい言葉かけが、経験年数の少ない教職員の心強い支えとなった。 	<ul style="list-style-type: none"> 教職員の温かい働きかけのおかげで、生徒が安心して、そして楽しく学校生活を送っていると感じた。生徒との信頼関係を今後も大切にしたい。 部活動の今後のあり方についても注視していき、地域として支えていける部分について考えていきたい。 	<ul style="list-style-type: none"> 勤務時間内に会議・部活動・教材研究等を終えることができるように、日課表の見直しを行う。 働きがいにつながるように、研修主事を中心に、短時間で中身のある校内研修を実施していく。研修では、ミドルリーダーが若手教育の質問に答えるなど、双方向のやりとりを大切にする。
災害、事故、感染症、生徒指導事案等に対する安全性の確保	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の命を確実に守る危機管理マニュアルを作成し、全職員がその内容を理解し、有事において、適切な判断のもと指導できるための研修を実施する。 生命の尊厳の理解につながるために、道徳やいじめを見逃さない日の充実に努める。 	A	<ul style="list-style-type: none"> 【教職員アンケート】安全指導の徹底→肯定的回答率100%ケガや熱中症、アレルギー対応等生徒の生命を第一に考えた指導や対応を組織的に行うことができた。 いじめを見逃さない日では生徒会執行部の生徒が仲間への関わり方を考える機会を設けるなど、いじめの未然防止に向けて工夫した指導を継続的に行うことができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 生徒が一生懸命掃除に取り組む姿に感心した。校舎内の掃除が行き届き、美しく整然としている。このような取組は、生徒の安心・安全の確保につながっている。 生徒アンケートで「どんな理由があってもいじめをしてはいけない」が100%になる取組をしてほしい。(今回のアンケートでの肯定的な回答率は98%) 	<ul style="list-style-type: none"> 命を守る訓練は、実施時期や内容を検討し、教職員や生徒にとってもより有益な訓練となるよう工夫する。 フリースペースで過ごす生徒に対する支援として、学校だけでなく、地域の方との関わりや支援についても検討する。
教育環境と学校財務環境の整備及び効果的な活用	<ul style="list-style-type: none"> ICTの効果的な活用など工夫した授業を進め、個別最適な学びの実現を目指す。 環境の整備・維持や充実した教育課程の実施に向けて、適切な予算計画及び執行をするために、事務職員と教職員の連携を密にする。 	B	<ul style="list-style-type: none"> 【教職員アンケート】ICTの積極的かつ工夫した活用による生徒の学びの深まり→肯定的回答率83%教科部会等でロイロノートやスタサブの有効な活用方法を考えた。 【教職員アンケート】備品・消耗品の有効活用→肯定的回答率100%生徒の学習や生活の充実につながる予算計画及び執行となるよう事務職員と連携できた。 	<ul style="list-style-type: none"> ICTの活用等の影響で、自分たちが受けてきた授業とは、大きく変わってきている。こうしたICTの活用がどこまで生徒の学力向上につながっているかは検証が必要である。また、自分の考えを紙のノートに書きまとめるなどの活動もバランスよく位置付けてほしい。 	<ul style="list-style-type: none"> ICT機器の効果的な活用を行う実践が増えている。それを教職員全員で共有し、教科部会等で具体的なロイロノートの活用の場を明確にする。 スタサブの活用を促すだけでなく、内容ごとの位置付け等、有効な活用の仕方についてさらに検討する。